

「漁村集落におけるこれからのまちづくり」勉強会メモ

- ・ 次の自分の家がいつできるのか、わかることが安心につながる。
- ・ 気仙沼市小泉地区。被災後住民主導で集団移転を計画。2011年6月には移転を決めた！
- ・ 住民が自分達でまとまった後で、実現に向けて智恵を、という話・・・。
- ・ 東日本大震災から一年後、沼津市内浦重洲地区住民は事前高地移転を決めた！
- ・ 昼間どこにいる？家だけ高台にうつっても。家にいるとき被災するとは限らない。
- ・ 防災集団移転促進事業＝「防集」。が、災害危険地域を定めるわけではない。
- ・ 現（前）居住地が災害危険区域に指定されると、あらたには建てられなくなる。
- ・ 事前移転で半分が移転、残った半分は建替えられなくなる。合意が必要。
- ・ 地域、まちごとの特性と一律な処理、その乖離をどう埋めるのか。
- ・ 集落が、コミュニティが、持続できるのか。そもそも人口減傾向地域の。
- ・ 高齢者がどう住み続けられるのか。話し合っているうちに亡くなっていく方もいる。
- ・ 移転するにしても、そこでどんな将来像を描けるか。どれだけそれを共有できるか。
- ・ 集落として成立する規模で動けるのか。個か集団か。
- ・ 100世帯をこえるから出来ること、がある。店舗誘致、メガソーラー・・・
- ・ 行政が考えるなら、「集団」。民間は「個」でよい。
- ・ 「地域性」をとばして、「手法」の議論はできない。
- ・ 「地域力」の高い低い復元力（被災後、事前にかかわらず）を大きく左右する。
- ・ 漁村を復興しても、2、30年維持できるポテンシャルがあるのか。
- ・ 復興のお金で船が新しくなって、跡継ぎもいないのにやめ時を失ったという漁師も・・・
- ・ 赤字なのにやり続けざるをえない・・・。生活が一変するようなお金が入って。
- ・ 政府の制度は、地元住民が願うものではない。制度は「つくっていく」もの。
- ・ 絆がたち切れ、美しい漁村の風景は失われてゆく。
- ・ 木岐で漁業しているのは三割。漁協存続の危機。他地域と合併しないと。
- ・ 自助⇔共助⇔公助。その境界。どちらからも一方的には作れない。
- ・ 避難路に危険はないのか。安全性はどれくらい確保できているか。できることから。
- ・ 行政と一緒に出来ることと、出来ないこと。住民が理解することが必要。
- ・ 納税者の命を守るというのが公共の福祉の原則。
- ・ 現インフラの範囲の少し先へ。街が広がって徐々に移動していくイメージなら？
- ・ 事前移転は、住む場所の確保という表面よりコミュニティをいかに維持発展できるか。
- ・ 人口減少してゆく地方のまち。都市と同様の消費と生産を維持するための国からのドーピングでぼろぼろに。クスリでごまかして本来の体力すら失ったまち。防災以前に、弱ったまちの骨格を整えつつ、手術やクスリに頼らず、最後まで自分で食べて歩ける身体へ改善していくには・・・。まちの消滅・・・諦観？の風潮を疑い、「まちの整体」を。既存のまちの更新が前提だが、集団移転は新しい身体を獲得。だが、どう育てるか。